1. 事業テーマ

ご提案のタイトルをご記入ください。

障がい者の可能性を拓く「ちがさき版アビリンピック勉強会」

2. 事業内容・手法

日常を地域で過ごす中で「課題に思うこと」や「変えたい！と思うこと」を書いてください。

スキルをもっていても障がいのある人の就労はなかなか難しく「働きたい」希望があっても、あきらめざるを得ない。また、事業者等は障がいのある人との交流やコミュニケーションの経験不足や特性を知る場も少ないため障がい者雇用が進まない現状がある。そこで、「障がい」が持っている可能性を知る機会をつくり、ネガティブな存在から脱却し、願わくば就労につながる可能性をさぐりたい。

全国アビリンピック*①や世界大会の「ワード・プロセッサ」*②部門で受賞している青年*③が茅ヶ崎にいるが、あまり知られておらず、その優れたスキルも活かされていない。特別支援学校の生徒や先生、福祉事業所でもアビリンピックの認知度は低い。

*①アビリンピック：全国障害者技能競技大会の愛称。障害のある方々が、日頃培った技能を互いに競い合うことにより、その職業能力の向上を図るとともに、企業や社会一般の人々に障害のある方々に対する理解と認識を深めて、その雇用の促進を図ることを目的として開催されている。

*②ワード・プロセッサ：和文・英文の「word」で同一の文書作成における技術を競う。

*③受賞歴：第8回国際アビリンピック データベース（基礎）種目に日本代表。銀賞受賞。

協働することで「こうやったら解決する！！」と思う手法を書いてください。

2018年11月、沖縄県で開催される第38回アビリンピックに先立ち、同年3月に、障がいのある人が持っている職業能力の高さや直向きな姿に触れる機会として勉強会が開催された。「ワード・プロセッサ」種目の講師として茅ヶ崎在住の青年（第37回大会の金メダリスト）が招かれ、過去の協議課題の実演、説明、日常の練習方法の質疑応答への回答などがわかりやすいと好評を博し、障がいのある人から自信がついた、仲間が増えた、仕事のスキルアップにつながる実感が生まれるなどの感想が寄せられた。この青年を講師に迎えて「ちがさき版のアビリンピック勉強会」を開催し、「障がいのある人があたりまえに働ける」可能性を知る一歩とした。障がい当事者団体が日ごろ感じている親なき後の不安を軽減したい。

この事業を実施するために・・・

「市民活動団体等が行うこと」を書いてください。（どんな団体が、どんなことを？）

障がいの当事者団体
障害があっても得意なことを活かして挑戦できることを、当事者や家族が学びあうとともに、市内の事業者等に情報発信する。
学齢期の子どもが地域で就労体験を支援している市民活動団体とも連携する。

「市が行うこと」を書いてください。

障がい者に関係する部局と雇用が連携して、障がい者雇用を促進につなげる。
学齢期の子どもが市役所内で仕事体験やコミュニケーションスキルを育む機会をつくる。